

平成 28 年度事業計画

京都府内に存する埋蔵文化財の調査、研究、保存、活用を行い、文化財の保護を図るとともに、文化財保護の普及啓発に努め、地域の文化の発展に寄与することを目的に実施する。

平成 28 年度の事業計画は、次のとおりである。

1 発掘調査受託事業

国・京都府等が実施する公共事業に伴う埋蔵文化財発掘調査を受託する。本年度は、別紙平成 28 年度発掘調査事業予定一覧のとおり、19 件の発掘調査（道路建設関係 12 件、施設建設関係 4 件、河川改修関係 1 件、ほ場整備関係 2 件）、及び 2 件の整理報告を併せ 924,280 千円の事業とする。

平成 24 年度から本格的に実施している新名神事業及びその関連事業については、奈良時代の掘立柱建物ほかを確認した城陽市芝山遺跡などで、継続して実施する。

亀岡中部農地整備事業に係る調査は、平成 27 年度から亀岡市佐伯遺跡に着手し、今年度も同遺跡の調査を継続する。

由良川の水防災対策事業として平成 27 年度から調査を実施し、古墳時代から飛鳥時代の遺構面を確認した福知山市阿良須遺跡は、継続して調査を実施する。

これら事業以外にも、京丹後市における古墳の調査、平安京城での調査、また今年度の調査で奈良時代の遺構が確認された木津川市岡田国遺跡なども注目される。

なお、発掘調査の結果は、遺跡調査報告集第 168 冊～171 冊として刊行する。

2 普及啓発事業

(1) 埋蔵文化財セミナー

埋蔵文化財セミナーは、発掘調査成果の発表を通じて京都府の歴史の解明と文化財の保護に寄与するために年 3 回開催する。

第 1 回は、舞鶴市内において開催し、平成 25、26 年度に調査を実施した大川遺跡の調査成果を中心に京都府北部の中世社会をテーマに解説する。

第 2 回は、8 月に開催予定の「平成 26・27 年度府内発掘調査成果速報展」にあわせ、京都府内で注目を集めた遺跡について解説する。

第 3 回は、平成 28 年度に話題となった古代の都城遺跡などについて解説する。

(2) 機関誌

当調査研究センター及び府内関係機関等の発掘調査状況の速報として、当面する埋蔵文化財の調査、研究及び保護に資するために『京都府埋蔵文化財情報』を年 2 回刊行する（第 130・131 号）。

(3) その他刊行物

35周年記念刊行物の印刷製本、センター概要資料(16ページカラー)の更新、35年のあゆみの作成を行う。

(4) 成果展

平成26・27年度に当調査研究センターが実施した調査成果を中心として、府内市町村の成果も加え成果展を開催する。会場は向日市文化資料館で、会期は平成28年8月中旬から8月下旬の約2週間を予定している。

(5) 共同研究

当調査研究センターにとって必要な調査研究を行い、その成果を『京都府埋蔵文化財情報』に公表して、京都府における埋蔵文化財の保存と活用に資するため、職員により共同研究を行う。

(6) 出前講座・体験授業等

京都府教育委員会、各教育局、府文化環境部、市町村及び府内小・中学校と連携して、出前講座や発掘調査体験授業、現地説明会等、積極的な文化財保護の啓発を行う。あわせて、ホームページで啓発事業の活動報告を行う。

(7) 「関西考古学の日」関連事業

全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロックの各財団が各種イベントを開催する「関西考古学の日」に関連して、当調査研究センターでも、京都の歴史を紹介する講座や遺物のものづくり体験教室等を開講する予定である。

3. 職員研修

(1) 専門研修

全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会や同協議会近畿ブロックが開催する研修会などに参加する。また、独立行政法人奈良文化財研究所による専門研修にも参加する予定である。

(2) 一般研修

人権研修委員会が中心となっておこなう職場研修のほか、京都府教育庁行政・人権問題研修や公益財団法人世界人権問題研修センター開催の人権大学講座にも積極的に参加する。

(3) 遺跡検討会

今年度もしくは次年度刊行に向けて報告集作成作業の進む松井横穴、平安京跡など大きな成果をあげた2遺跡について、職員とともに関係機関の協力を得て、遺構・遺物の検討をおこない、今後の報告集に反映させる。